

5 発生時の対応

(1) 施設内での情報共有

- ・ 感染を広げないためにも、初動でいかに早く対応するかが重要です。
- ・ 早めに、かかりつけ医、嘱託医、協力医療機関に報告・相談しましょう。

ポイント

- 感染症が流行、拡大した際は、一元的に情報を管理する者を置き、職員間の「報告・連絡・相談」を徹底し、感染拡大防止（命と利用者の生活を守るため）の意識の統一を図りましょう。
- 情報を提供する際の留意点
 - ①伝えるべき必要な情報は簡潔に
 - ②いたずらに情報量を増やさない
 - ③今あるものを活用し、手間や費用をなるべくかけず効率的に

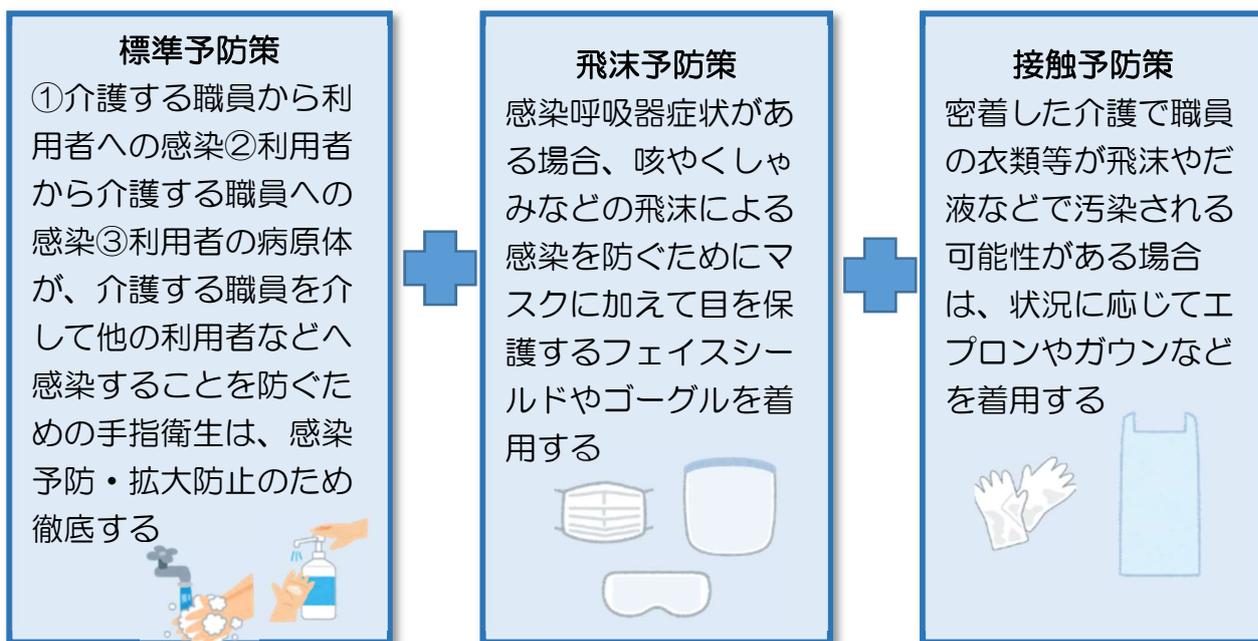


- ・ 家族への情報提供も忘れずに！

(2) 防護具（PPE）の場面に応じた選択

<感染症発生時の防護の留意点>

標準予防策の徹底と日頃からの取組を基本としながら、感染経路別の対策を行います



	手袋	サージカルマスク	N95マスク	ガウン	フェイスシールドまたはゴーグル
エアロゾル発生手技 吸引・むせ込み多い利用者の食事介助 口腔ケア	●		● 注1	●	●
飛沫曝露リスクの高い場面 食事介助・おむつ交換・入浴介助・ 清拭	●	●	△	●	●
その他の作業時	●	●	△	△ 注2	△

状況に応じた PPE の選択をしましょう

● : かならず使用する

△ : 状況により使用する

注1 : 咳・痰・大声を出す利用者との身体接触する時

注2 : 身体接触がなければガウンは不要

PPE の着用例

①利用者との接触がある（飛沫が多い介助）

- ・痰の吸引
- ・むせ込みや咳の多い方の食事介助
- ・口腔ケア

N95 マスク



フェイスシールド
またはゴーグル
N95 マスク
ガウン
手袋

②利用者との接触がある（触れることが多い介助）

- ・食事介助
- ・おむつ交換
- ・入浴介助
- ・清拭

サージカルマスク



フェイスシールド
またはゴーグル
サージカルマスク
ガウンまたは袖なし
エプロン
手袋

③利用者との直接の接触がない（直接触れない）

- ・配膳
- ・配薬



サージカルマスク
手袋

(3) 防護具の着脱

陽性者との接触で職員が感染しないよう、適切な防護具（PPE）の着脱手順で実施できるようにしましょう

- ① ケアに応じた PPE を適切に着脱することで、職員個人の感染を防ぎ、他の陰性者への感染媒介を防ぐことができます。
- ② 着脱手順も合わせて共通認識し、正しく行えるように練習しておきましょう。
- ③ 疑わしい症状のある利用者は、できるだけマスクをしてもらいましょう。

着る順番



脱ぐ順番



ガウンの脱ぎ方



首ひもをちぎる



汚染された面が内側になるように腰の辺りで折りたたむ



袖から両腕を抜く



前に引いて腰ひもを切る



ひとつにまとめる



ゴミ箱へ捨てる



手指消毒をする

注意

使用したガウンの表面はウイルスに汚染されている可能性があるため、触れないようにしましょう。

(4) ゾーニングについて

感染者が発生した場合には、生活空間等の区分け（ゾーニング）を行います。陽性者の居室がわかる配置図を用意し、施設の構造、利用者の特性を考慮しながら、初発のみ、数名、全体に拡大と段階を追ってゾーニングの方法等を考えておきましょう。

- ・感染者または感染が疑われる者が発生したら、原則、個室で対応します。
- ・患者と同室で症状がない方を移動させることは、さらなる感染者を増やす可能性があります。この場合、その場から動かさず部屋全体を感染のリスクがあるゾーンとみなして対応します。
- ・診断が確定していれば、陽性の方を同室にする方法もあります。

ゾーニングとは、清潔区域（グリーンゾーン）と汚染区域（レッドゾーン）を明確に区分けすることを言います。



ウイルスはレッドゾーンで抑えて、グリーンゾーンには持ち込まないことが基本です。

○レッドゾーン：ウイルスが多い区画

陽性者の居室

職員が个人防护具（PPE）を着用して、ケアをします。

レッドゾーンで使用した个人防护具（PPE）を着用したまま、グリーンゾーンへの移動は禁止です。

*原則、レッドゾーン内から、物品を持ちださないように注意してください。

○イエローゾーン：ウイルスが少ない区画

レッドゾーンからグリーンゾーンに戻るまでの中間地点

防護服を脱いで、消毒し、ウイルスが無い状態に戻るための場所です。

*防護具を着脱するためのゾーンと決めておきましょう。

○グリーンゾーン：ウイルスがない区画

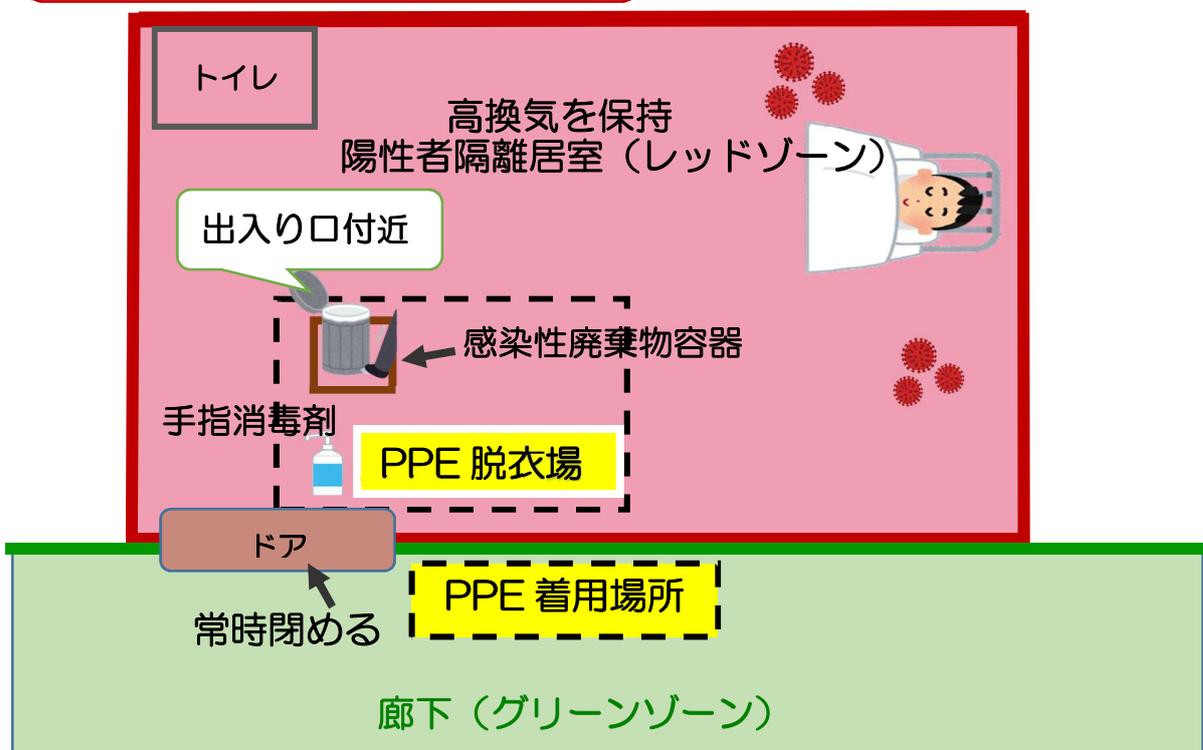
- ・通常業務をする場所：スタッフステーション、事務室、職員の休憩室など
ここでは个人防护具（PPE）は不要です。

*ここでホッとひと息入れてください



- 他のユニットやフロアへの更なる拡大を防ぐために、職員がユニットやフロアを交差して移動しないよう、陽性者担当の職員を固定するのが望ましいです。
- 職員の食事時、休憩時の会話ではマスク着用し、感染を防ぎましょう。スタッフエリアは病原体が存在しない区域（グリーンゾーン）として維持することが物品を介した交差感染を防ぎ、長時間の防護具着用による職員の身体的負担を軽減させます。

陽性者隔離居室（レッドゾーン）



注意

感染者の隔離を徹底しても、基本的な手指衛生や防護具の正しい取扱いができていなければ、職員が病原体を運ぶことになり、感染拡大を防ぐことはできません。

(5) トイレの使用について

陽性者もしくは疑いのある利用者のトイレは専用にします。

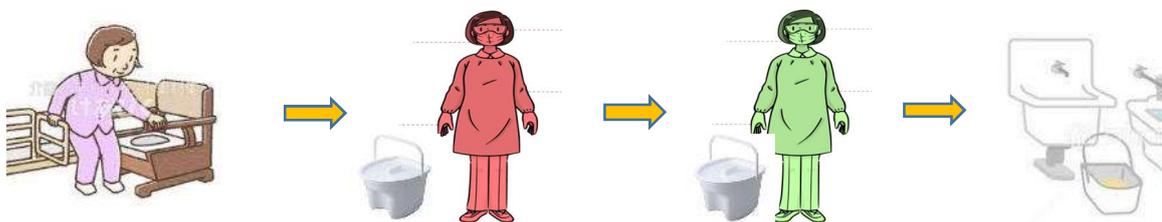
【共用のトイレ使用】

基本的には、陽性者もしくは疑いのある利用者は居室内のトイレ、またはポータブルトイレを設置しましょう。やむを得ず、陰性者と共用のトイレを使用するときは以下のことに注意しましょう。

- ① 共用トイレ内の1つを「陽性者専用トイレ」張り紙をドアの入り口に掲示して、陰性者が使用しないように工夫しましょう。
- ② 陽性者は居室からトイレまでの行き来はマスク着用し、手指消毒しましょう。
- ③ トイレ内に他の利用者がいないことを確認してから使用しましょう。
- ④ 職員は陽性者が触れた部分（スイッチ、ドアノブ、手すり、便座）をアルコール含有消毒液で拭きましょう。

【ポータブルトイレ使用】

- ・居室内（レッドゾーン）にトイレがない場合はポータブルトイレの設置を検討します。
- ・使用後のポータブルトイレの洗浄時は防護具を着用し、2名で対応します。



- ① 居室ポータブルトイレで排泄
 - ② 排泄物バケツをレッド対応職員が、廊下で待機している職員に渡す
 - ③ 渡された排泄物バケツの排泄物破棄しバケツの洗浄を行う
- ・ポータブルトイレのバケツ内に、ビニール袋を複数枚かぶせてその中に尿とりパットなど吸収シートを入れる方法（使用後はビニール袋に入れて破棄）

＜使用方法＞ポータブルトイレシートのセットのしかた			
1	便座を上げてシートを広げます。 (前後フリー)	2	バケツ(ポット)に吸収体部分をセットします。
3	便座を下ろします。	4	奥側のコーナーをイラストのように引っ張ります。
5	★重要ポイント	6	★重要ポイント
7	手前側も同様にコーナー部分を引っ張ります。この時、吸収体バケツの底から少し上がる程度まで引っ張ります。	8	セット完了後、注意点として上から見て両側のギャザーをバケツに添わせてください。
使用後の処理のしかた			
1	すべてのコーナーを左手でつまみバケツから抜き上げます。	2	大便是、トイレに流して始末してください。
3	左手でコーナー部分をしっかりとつかみ、右手で処理テープのつまみ部分を引き伸ばして図の様に巻きつけます。	4	処理テープで汚れた部分を封入し、処理いたします。廃棄方法は、お住まいの地域のルールに従ってください。

(6) 入浴について

陽性者の入浴は体調が良くなってから、他の利用者との接触しないよう、十分配慮しながら行いましょう。

〈入浴例〉 陰性者入浴→陽性者入浴（介助必要時は職員は個人防護具着用）→
浴室内の換気・清掃・消毒→脱衣室の換気・清掃・消毒

- ・界面活性剤が含まれた浴室用洗剤で消毒・清掃ができます。
- ・浴室の使用後は換気を徹底しましょう。
- ・脱衣室内の陽性者が触れた部分（手すりなど）消毒しましょう。
- ・普段から浴室使用後は水分を拭き取り、乾燥させましょう。



(7) 食器について

食器類は、残飯も含めてビニール袋に密閉して、レッドゾーンから持ち出します。

- ・食器を洗う場合は（通常の食器洗剤を使用）、非感染者の食器と別にして、最後に洗浄しましょう。
- ・食器洗浄機を使用する場合は、他の食器と一緒に洗浄できます。
- ・使い捨て容器を使用し毎回廃棄する場合は、食器のコストやゴミが増えますが、食器からの接触感染する機会を減らすことができます。



手袋とマスクをして作業し、洗浄後シンク内や水がはねた場所、手の触れた部分は消毒・清掃を行いましょう。



(8) ゴミの処理について

- レッドゾーン内から出たゴミは、ビニール袋を2重にして廃棄します。
- ゴミの廃棄契約をしている施設は、契約業者に相談し、処理方法について確認しましょう。
- ゴミ処理時は、直接ゴミに触れないように気をつけて、ビニール袋いっぱいになる前に密封しましょう。
- ゴミやゴミ袋へのアルコール消毒液の噴霧は、有効な効果が得られないため不要です。
- グリーンゾーンのゴミは通常のゴミの廃棄で構いません。
- ゴミ処理の後は、石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。



(9) 洗濯について

リネンや衣服は、通常の洗剤を使い、洗濯機で洗います。

- レッドゾーンからリネン類を持ち出す際にはビニール袋に密閉して運び、洗濯物の袋を洗濯機の中で開けて、ウイルスが他につかないようにしましょう。
洗濯機に洗濯物を入れるときは接触感染に注意しましょう。
- 普段の洗剤（界面活性剤：通常の洗剤に含まれている）により洗濯物のウイルスは除去されます。
- 非感染者の洗濯物と必ずしも分ける必要はありません。



(10) 消毒、清掃について

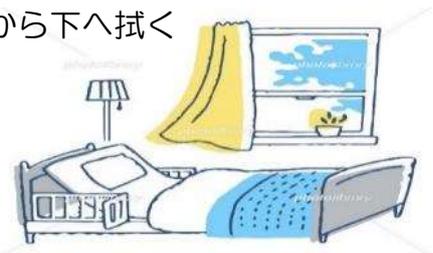
リビングテーブル、食堂テーブル、椅子、ドアノブ、手すり、電気のスイッチ、エレベーターのボタンなど、よく触れる所は念入りに拭きましょう。

拭くポイント

「人がよく触れるところ」を、「拭き掃除」で、「清潔な道具」で行いましょう。

【ベッド清掃の例】 1方向で繰り返さない、上から下へ拭く

- ① 頭側ベッドフレーム
- ② ベッド柵
- ③ 足側ベッドフレーム



【トイレ清掃の例】

- ① スイッチ、ペーパーホルダー
- ② 手すり
- ③ 便器
- ④ 床



(11) 集団活動の実施の工夫について

- 利用者の ADL の低下防止のため、できるだけ普段通りの生活の保持に努めましょう。
- 集団活動を継続する場合は感染者や感染リスクの高い方、有症状者、それ以外の方とそれぞれ分離して行いましょう。
- 陽性者数や拡がり状況などをみて、時間をずらしたゾーニングなど1度に来る人数を極力減らしましょう。
- 間隔をあげ、対面にならないよう対角に座りましょう。
- 職員や利用者の手洗いや消毒、マスクの着用など感染対策を行いましょう。

